

(令和3年06月07日)

< ワンポイントレッシン (実践) >

< 2021年05月の製造工業生産予測指数 >

・5月31日に経済産業省から発表された今年4月の鉱工業生産指数・季節調整済みは、前月比2.5%の上昇でした。「今月は生産、出荷は上昇、在庫、在庫率は低下」。「鉱工業生産予測調査によると5月は低下、6月は上昇を予想」。「総じてみれば生産は持ち直している」としています。

20210531 発表
前月比、前年同月比は%

鉱工業指数 (2021年4月) 速報

	前月比				前年同月比	
	季節調整済指数				原指数	
	3月確報 (21.5.19)		4月速報 (21.5.31)		4月速報 (21.5.31)	
生産	97.2	1.7	99.6	2.5	98.4	15.4
出荷	94.8	0.4	97.3	2.6	95.2	15.7
在庫	94.8	0.4	94.7	▲0.1	93.6	▲9.8
在庫率	110.0	0.2	108.0	▲1.8	107.1	▲21.5

製造工業生産予測指数21.5.31季節調整済前月比 (%)

	2021年4月の結果	2021年5月見込み	2021年6月見込み
21年4月調査	8.4	▲4.3	
補正值	4.6 (2.8~6.4)		
結果	2.5		
21年5月調査		▲1.7	5.0
補正值		▲2.5(▲4.4~▲0.6)	

出所：経済産業省ホームページから作表。

一方、製造工業生産予測指数。以下、ポイント。

・5月上旬に実施した5月・6月の企業の生産予測結果では、5月▲1.7%の低下、6月は5.0%上昇と予測。そして5月の補正值は、最頻値▲2.5%。90%の確率で収まる範囲は▲4.4%~▲0.6%のレンジとしています。

・5月の生産計画では、全体11業種のうち4業種が前月比低下、7業種が前月比上昇の計画。世界的な半導体不足を背景に、輸送用機械工業の低下寄与度が高かったのに対して、上昇寄与度が高かったのは生産用機械工業。これは、世界的な半導体不足を背景に輸送用機械工業の生産計画が下方に見直され、生産用機械が上方に見直されたことが背景。

・なお、6月までをみると輸送機械工業は微増、石油製品工業や生産用機械工業が大幅に上昇することから生産は4月比で伸びるとしていますが、調査時点で6月の輸送用機器について世界的な半導体不足が十分反映されていない可能性があることも想定。

生産は持ち直しが継続。サプライチェーンの問題は、今後の企業の構造改革に期待。景気全体、日本は早期のワクチン接種効果が望まれるところと思います。